



## 【令和3年度 I T 人材育成事業 キックオフ】

課題発見力 プラス 解決提案力 の 育成



4月16日(金)第一パソコン室でキックオフに参加する情報処理科三年生のみなさん

### 浜田商業高校の I T 人材育成事業とは

I T 人材育成事業では浜田商業高等学校の情報処理関連の授業を地元 I T 企業と連携して、I T 産業界の実務を踏まえた内容を取り入れることにより、生徒の I T 産業界に対する理解を深めるとともに、地元 I T 企業が求める人材育成を図り、就職機会の創出と雇用増加を目的としています。本年度は事業6年目となります。最新の I T 技術や情報、及び実際のビジネス創出手法などを教員と協議しながら教材化し、カリキュラムを編成。授業の進め方は、教員と講師（I T 技術者：株式会社 e-F r o n t 島根支社様）によるチームティーチングにより、生徒に自ら考えさせ課題を解決する力をつけさせる内容の授業を展開しています。

## 【浜商デパート設立総会開催】

6月17日(木) 本校体育館で 第20回浜商デパートの設立総会が開催されました。代表取締役社長に3年生の小川良弥さん(浜田一中出身)が就き各係の代表の紹介および業務内容の説明をしました。浜商デパートを成功させようと生徒の皆さんは真剣に説明を聞いていました。



【第20回浜商デパート】は11月7日(日)10:00開催予定 代表取締役社長 小川良弥さん3年生(浜田一中出身)

7月時点での計画であり今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては計画の変更を臨機応変に対応していきます。

## 【浜商進路 Week】

7月1日の求人票受付開始に合わせ「浜商進路Week」を開催いたします。進路決定が直前に迫った3年生からこれから本格的な高校生活が始まる1年生と学年により目的は異なりますが、自分についての理解を深め、進路実現に関する知識を獲得する期間としています。

第1弾として6月30日(水)5・6限目に「浜商生のための地元企業セミナー2021」を開催しました。セミナーでは、地元浜田の企業を身近に感じること。地元企業について理解を深めること。企業の取り組みから地域の魅力や課題を学ぶこと。進路選択に活かす機会とし様々な職種に興味を持ち、進路選択の幅を広げることを目的としています。31社の企業の方に参加していただきました。企業のみなさんの中に本校の卒業生もたくさん参加していました。生徒は真剣に話を聞いていました。



事業内容の説明を聞く生徒

3年生の宮崎七海さん(浜田二中出身)は、「どの仕事も人と人とのつながりが大切だと感じ、それがやりがいにつながることや社会に出ると今以上に挨拶が大切だということを知りました。また、自分ができるようになりたいことや見つけたいことがまだまだあることに気づきました。今回説明してもらったことを忘れずに進路選択の参考にしたいと思いました。」と話しました。



～今後の主な予定～

8月2・3日 1日体験入学 9月3・4日 学園祭  
10月2日 オープンスクール 11月7日 浜商デパート



発行元：島根県立浜田商業高等学校



県大会で表彰された一木さんたち

藤井 亮太さん（浜田東中出身）

7月25日

（広島・広島市立大学）

情報処理競技大会

第33回全国高等学校

情報処理

一木 結芽さん（浜田三中出身）

7月18日

（兵庫・関西学院大学）

簿記競技大会

第37回全国高等学校簿記競技大会

小泓 奈々美さん（金城中出身）

8月4日

（愛知・名古屋市中企業振興会館 吹上ホール）

ワープロ

第68回全国高等学校ワープロ競技大会

IT商業研究部

ワープロ

他14名

大塚 ほのかさん（弥栄中出身）

8月2日～4日

（和歌山・和歌山ビッグホエール）

郷土芸能部

全国総合文化祭郷土芸能部門

（和歌山・和歌山ビッグホエール）

【祝】 全国大会出場



©山高 守人

# 祝優勝 高校総体陸上競技 男子 400m

梶間 絢斗さん（3年生）

## 出会いと挑戦

■ 男子 400m 決 勝 1組 1着 4レーン 49.64

梶間 絢斗 3年生（浜田東中出身）

梶間さんに聴きました

浜田東中学校出身の3年生、中学時代はバスケットボール部に在籍していました。浜田商業に入学してからも好きなバスケットボールを続けていましたが、1年生の後半に高校での練習やゲームが自分には合っていないと感じ退部を決意しました。部活動に所属していない期間が続き、高校生活に物足りなさを感じ始めていたとき商業科の科目担任でもあった山藤先生（陸上部監督）に声をかけられ2年生の夏休みから陸上競技部に所属し新たな活動を開始しました。

**再出発** 気持ちを新たに自分に何が出来るのか、いろいろな種目への挑戦の始まりでしたが挫折を経験した僕は一人で練習を続けることに自信がありませんでした。しかし、そこにはお互いに励まし合えるチームメイトがいるということに気づきました。

指導して下さった山藤先生や壁を乗り越えるために協力し合ったチームメイトを信じて挑戦し続けたことが今回の優勝という結果に結びついたと思っています。

## 潜在的な能力の発見と発揮

顧問 山藤泰俊監督の話

「商業科目の授業で梶間君を知ることになった。彼の体格や動きを見て陸上競技部に勧誘した。2年生の夏から毎日練習に参加してくれて一緒に過ごす時間が増えていく中、彼の性格や運動機能を次第に理解でき潜在的な能力を感じ始めた」

「体の動きが大きく適度な持久力があることなどから400mが最良の種目であると判断してエントリーを進めた」

「県総体までは追い込んだ練習を積み重ね疲労を蓄積させたうえで大会に出場し結果を出せなかったが、照準を今大会に合わせてベストコンディションで走ることができた」と振り返った。

「梶間君や他の選手に出会えてことに感謝します」と話した。

